

同時資料配布先：  
経済産業記者会  
学研都市記者クラブ

2022年12月20日

公益財団法人地球環境産業技術研究機構  
次世代型膜モジュール技術研究組合

## 革新的 CO<sub>2</sub> 分離回収技術シンポジウム ～ 地球温暖化防止に貢献する固体吸収材及び膜による分離回収技術の最新動向 ～ 開催について

革新的 CO<sub>2</sub> 分離回収技術の開発、それらの社会実装に向けた取り組みを広くご関係の皆様にご覧いただき意見交換をしていただくため、2023年2月13日に公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）と次世代型膜モジュール技術研究組合（MGM 組合）は、「革新的 CO<sub>2</sub> 分離回収技術シンポジウム」を共同で開催いたします。

RITE の下田吉之所長の基調講演の後、CCUS（Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage）の社会実装へ向け第一線で取り組んでおられる企業技術者の方々に開発状況を講演していただきます。続いて、RITE と MGM 組合が取り組んでいる CO<sub>2</sub> 分離回収技術の研究開発状況についてご報告いたします。RITE にて着手しております Direct Air Capture（DAC）の開発、RITE にて調査しました CCS 海外動向の情報もお話いたします。

CCUS の社会実装、RITE 固体吸収材、MGM 次世代型膜モジュール、DAC、CCS 海外動向などにご関心をお持ちの皆様には最新の動向をお聞きいただける絶好の機会です。是非ご参加下さいますようご案内申し上げます。会場と web 配信を準備しております。会場での意見交換を活発にして参りたいですので、お越しになれる方は是非とも会場から参加してください。

※次世代型膜モジュール技術研究組合

（組合員：住友化学株式会社、公益財団法人地球環境産業技術研究機構）

### 1. 開催趣旨

2020年10月に宣言された『2050年カーボンニュートラル』と、2021年6月に策定された『2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略』に基づいて、日本では様々な技術領域で地球温暖化防止のための取り組みが推し進められています。「二酸化炭素を効率よく回収する技術の開発」、「回収した二酸化炭素の利用技術の開発」は、その取り組みの1つであり、革新的な技術開発が強く求められています。当シンポジウムでは、日進月歩する国内外の革新的技術開発の一端を、広く社会の皆様や関係する企業・大学、各種ユーザーの皆様にご覧いただき、意見交換をする場としたいと考えます。

脱炭素への社会のニーズが高まる中、公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）と次世代型膜モジュール技術研究組合（MGM 組合）では、様々な国内メーカーと協力しながら、革新的 CO<sub>2</sub> の分離回収技術に長年精力的に取り組んでまいりました。現在、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業として、火力発電所等から排出される CO<sub>2</sub> を高効率に分離回収する研究開発に取り組んでいます。<sup>\*1</sup> さらに、大気中の CO<sub>2</sub> を回収するムーンショット型研究開発（DAC：Direct Air Capture）を開始しています。<sup>\*2</sup> また、CO<sub>2</sub> 分離素材の標準評価技術の確立に向けた取り組みも始めました。<sup>\*3</sup> シンポジウムでは、それらの開発状況についてご報告させていただきます。

<sup>\*1</sup> 「先進的 二酸化炭素 固体吸収材の石炭燃焼排ガス適用性研究」NEDO 事業

「天然ガス燃焼排ガスからの低コスト CO<sub>2</sub> 分離回収プロセス商用化の実現」NEDO 事業

「高性能 CO<sub>2</sub> 分離膜モジュールを用いた CO<sub>2</sub>-H<sub>2</sub> 膜分離システムの研究開発」NEDO 事業

<sup>\*2</sup> 「大気中からの高効率 CO<sub>2</sub> 分離回収・炭素循環技術の開発」NEDO 事業

<sup>\*3</sup> 「CO<sub>2</sub> 分離素材の標準評価共通基盤の確立」NEDO 事業

### 2. 開催概要

日時： 2023年2月13日（月）13時～17時

会場： 東京大学 伊藤国際学術センター B2F 伊藤謝恩ホール

開催形式：ハイブリッド形式（会場での講演をオンライン配信）

定員： 会場（145名）、web（1000名）

参加料： 無料

主催： 地球環境産業技術研究機構と次世代型膜モジュール技術研究組合の共同開催

共催： 経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構

後援： 日本 CCS 調査（予定）、Global CCS Institute（予定）、新化学技術推進協会（予定）、  
2025年日本国際博覧会協会（予定）

協賛： 日本膜学会（予定）、化学工学会、高分子学会（予定）、日本化学会

### 3. プログラム

13:00 主催者挨拶 地球環境産業技術研究機構 理事長 山地 憲治

13:05 共催者挨拶 経済産業省 資源エネルギー庁 長官官房  
カーボンリサイクル室長 羽田 由美子

13:10 共催者挨拶 経済産業省 産業技術環境局 環境政策課  
エネルギー・環境イノベーション戦略室長 三輪田 祐子

13:15 共催者挨拶 新エネルギー・産業技術総合開発機構 環境部 部長 上原 英司

13:20 - 14:00 基調講演 「CDR(二酸化炭素除去)技術の位置づけと展望」  
地球環境産業技術研究機構 所長 下田 吉之

14:00 - 14:40 招待講演① 「ブルーアンモニア（アンモニア合成+CCS）製造技術」  
日揮グローバル株式会社 サステナブルソリューションズ  
グループマネージャー 甲斐 元崇

14:40 - 15:20 招待講演② 「川崎重工の二酸化炭素分離回収技術開発」  
(活動報告含) 川崎重工株式会社 エネルギーソリューション&マリンカンパニー  
エネルギーディビジョン パワープラント総括部  
総括部長 安原 克樹

15:20 - 15:35 休憩

15:35 - 16:15 活動報告① 「二酸化炭素固体吸収材の研究開発動向と RITE の取り組み」  
地球環境産業技術研究機構 グループリーダー 余語 克則

16:15 - 16:50 活動報告② 「二酸化炭素分離膜モジュールの研究開発概要と CO<sub>2</sub>分離回収技術の  
海外動向」  
次世代型膜モジュール技術研究組合 技術部長 甲斐 照彦

16:50 - 16:55 閉会挨拶 次世代型膜モジュール技術研究組合 理事長 山口 登造

### 4. 参加登録

参加を希望される方は、下記 RITE ウェブサイトよりお申し込み下さい。

<https://www.rite.or.jp/news/events/>

### 5. プレス登録

取材を希望される報道関係者の方も、事前にお申し込み下さいますようお願い致します  
(やむを得ず当日受付となる場合は、本人確認のため名刺をご持参下さい)。

お問合せ先

○シンポジウムの内容・参加登録に関するお問い合わせ先：

・公益財団法人地球環境産業技術研究機構 龍治、菰野  
TEL：0774-75-2305 E-mail：bunrisympo@rite.or.jp

○本プレス発表に関するお問い合わせ先：

・公益財団法人地球環境産業技術研究機構  
企画調査グループ 広報・産業連携チーム 樋口、辰巳  
TEL：0774-75-2301 E-mail：pub\_rite@rite.or.jp